

神山神社だより

令和2年7月
27号

■夏祭り

今年の神山神社の夏祭りは七月二十五日の午後六時より宵祭り(試楽祭)を執り行い、引き続いてろうそく祭りを実施、そして七月二十六日の午前十時三十分より例大祭を執り行います。

前回の神社だよりに記載したように今年新型コロナウイルスの影響で神楽を始め、各物物は中止とさせて頂いた。来賓の人数を減らし叩き祭りをやめて取り扱いますが、氏子の皆さんの参拝までは中止にしてお避け密にならない様、御参り頂けるとありがたいです。

下段に二十五日と二十六日の行程表を記載しましたので其れに合せ御参り下さい。

七月二十五日(土)

朝九時

祭りの準備

午後三時

参拝可能

午後六時

神事

午後七時

参拝可能

ろうそく祭り

午後十時



ろうそくの風景

七月二十六日(日)

朝八時三十分

祭りの準備

午前九時三十分

参拝可能

午前十時三十分

神事

午後0時

参拝可能

午後一時

祭りの片付け

午後三時

参拝可能



神楽道行風景

■幽光御神灯祭の中止

毎年八月十五日に幽光御神灯祭(ろうそく祭り)を執り行っておりましたが今年には中止とさせて頂きさせていただきます。

ろうそくを並べ、音楽バンドをお呼びして、演奏と夕涼みをして戴くようにしていたお祭りですが多くの方に来て頂いていたので密になりやすく、安全のために中止した次第です。その代りではあります。夏祭りの宵祭り(試楽祭)後、ろうそくを境内に灯しますので参拝がてら見に来てください。

■衛生面に十分ご配慮ください

古来より神社仏閣で神様・仏様の御前で参詣される場合、作法のひとつとして、手水の儀があります。手を洗い、口をすすぐ行為は日本人が汚れに対して清潔、清浄の心が為せる業であると思われまます。また神事の中で行なわれる修祓の儀は特に尊いもの前では身の穢れ、心の穢れを払い落とした状態で望む行為である。このような伝統的な行為が知らず知らず家庭の中にも取り込まれている。新型コロナウイルスの感染率が海外と比べた場合、非常に低いといわれるのは、日常的に手洗い、うがい、また頭を下げる作法により、

感染しにくく、日本人が自然と身についている事がひとつの要因であるかも知れませんが、
注意深く、手洗い、うがいを忘れず続けられる様したいものです。

■ 修理修繕の完了お知らせ

神社境内にあります、天神社、洲原社、稲荷社前の鳥居の移築修理と社前石段の修理が終了いたしました。前号でお知らせした様に、いままで立っていた地盤が緩んできた事により、社の前にあった鳥居を登り口に下げ移築修理した。灯籠の修理修繕費用を含め百五十万出費しましたのでお知らせします。



修理移築後の写真

■ 先人が考えた疫病対策

今回、世界中で発症している新型コロナウイルス感染症は猛威を振るい、完全な終息は未だ予断を許さない状態ですが、過去にも疫病が流行り多くの人が死んで大変な時期があったことを知っていますでしょうか。「日本書紀の一事に「国内に疫病多くして、民死亡れる者有りて、且大半ぎなむとす」とありま

す。【日本国内に疫病が流行り多くの人が罹りて民の半数が死亡した

日本書紀の編纂は西暦720年に出来ているのでそれ以前のことと考えられますが、日本は常に災害 飢饉 疫病に怯えてきた歴史が存在することも事実です。では疫病が流行る要因は、仏教伝来に見られるように大陸との交易 国内交通網の整備により感染が拡大する素地が出来たことだと云われる。当時の人達は、この病が神仏の祟りである、どうすれば避けられるかと考えたに違ひありません。精神面では神仏にすがり厄除けのお祓いを行いました。現実面では忌中まで籠もる生活を推奨しました。葬儀を行うと家族の者は四十九日忌中で五十日目から忌明けと言います。これは疫病で死んだことにより濃厚接触者である家族が感染するかどうか一定期間外部との接触を避けたことによります。今のコロナウイルス対策と全く同じです。それだけ昔の人達は、疫病に対し知恵を絞り、判らない

なりに対策をしたことが現代にも通じていることはすごいことである。

■ 建設委員会より お知らせ

社務所建設の協力金並びに奉賛寄付金につきましてご協力いただき感謝申し上げます。しかしながら、まだまだお願ひ申し上げなければならず、当年より個人企業 団体様に対して個別に訪問させていただきます。奉賛寄付金をお願いするつもりでありましたが、新型コロナウイルスにより時政的にも訪問は差し控えてさせていただきます。本来であれば今年の十二月に締め切りを行い、建設計画の次の段階に進む予定でありましたが少し先送りにさせて頂くこととなりそうです。建設委員会会議を行たうえで報告をさせていただきます。

今回も奉賛寄付金の振込先を載せております。厳しい時節であると重々承知しておりますが、ご理解の上、資金調達に更なるご協力をお願い申し上げます。

神社だよりのお問合せ先

榊山神社

宮司 深谷 耕平

宅 ☎0573-72-2892

振込先

郵便局

(通常払込料金加入者負担)

口座記号番号

00810-5-217367

口座加入者名

榊山神社建設委員会

農協等の銀行

店名(店番) ○八九店 (089)

口座名称 榊山神社建設委員会

(サキヤマジノジヤケセツイイカイ)

預金種目 当座

口座番号 0217367

奉賛寄付金の不明点につきましては地区氏子総代もしくは宮司 氏子総代長までお問い合わせください。